

KBS京都「京bizX」

竹内キヤスター

京都経済の未来を語る

立石会頭



11年目を迎えたKBS
京都のビジネス情報番組
「京bizX」の竹内弘一
キヤスターが立石会頭にイ
ンタビュー。完成が迫る京
都経済センターや文化庁
の京都移転などを見据え
た京都経済の未来像に迫
ります。

知恵ビジネスが京都全体に広がってきた

〈竹内〉

会頭に就任されてからの10年で様々な取り組みを進めてこられましたでしたが、その手ごたえはいかがですか？

〈立石〉

この10年間で中小企業を取り巻く環境は大きく変化し、経営者にはあらゆる変化に知恵を活かして対応することが求められるようになりました。

京都には昔から、生活文化を中心にした様々な「知恵」が集積しています。この知恵を融合させて新しい産業を興す必要があると考え、会頭就任後すぐに策定した「ニュー京商ビジョン」で「知恵産業のまち・京都の推進」を基本方針として掲げ、知恵を付加価値の源泉にし、自社の強みを活かして新たな価値を提供することにより、新しい市場を創り出していけるような中小企業の育成に取り組んできました。こうした支援は、行政や他の産業支援機関など京都全体に着実に広がってきたと感じています。

これからの3年間は「知恵の集積」が大きなテーマとなります。2年後に完成する京都経済センターの機能を活かし、

京都に全面移転する文化庁との連携を強化しながら、「知恵産業の森」を大きく育てていきたいと思っています。

〈竹内〉

この10年間の京都経済を引っ張ってきた「知恵」というキーワードが浮かんだきっかけは何だったのでしょうか？

〈立石〉

これまでのような大量生産・大量消費型の産業では、この先の社会構造の変化に対応できないと考えていました。知恵を活かして脱量産の発想で内需を掘り起すことで、中小企業を発展させていくことが必要だという思いが念頭にありました。

京都経済センターは「創造的な知恵の連携拠点」

〈竹内〉

なるほど。2年後に完成が迫っている「京都経済センター」ですが、京都経済にどのような影響を与えるとお考えですか？

〈立石〉

京都経済センターは、3年前にオーレル京都で策定した「京都ビジョン2040」の柱のひとつである「世界交流首都・京都」の一翼を担う象徴的

な施設にしなければならない。そのためにも、国内外の人・文化・産業が交流する機能を充実させ、「京都経済百年の計」にふさわしいイノベーションが創発される拠点にしたいと考えています。



「高い文化と学術を有する創造的都市は、その時代の産業に革新を興す」と常々申し上げていますが、経済センターが未来に向けた創造的な知恵の連携拠点となり、世界への情報発信基地となるよう、オール京都の力を結集して取り組んでいきます。

〈竹内〉

連携を生み出す枠組みを作り、「知恵」というキーワードのもとに産業を活性化させていくということですね。

ところで、最近私が取材させていただいたのが、パリの国際的見本市「メゾン・エ・オブジェ」に展示された

「Kyoto Connection」事業です。海外から非常に高い評価を得ていますが、今後はどのようにサポートしていくお考えですか？

〈立石〉

京都のものづくり産業が磨き上げてきた高品位、高品質、高付加価値の製品や素材は、グローバルな世界市場でも高い競争力を有していることが認められ、海外のハイエンドなデザイナーや建築家、バイヤーなどと商談が進んでいます。各企業が持つ知恵を活かして海外にチャレンジする企業を引き続き積極的に支援していきたいと思っています。

失敗を恐れずチャレンジして欲しい

〈竹内〉

海外進出は非常に大きなチャレンジとなりますので、ぜひ応援していただきたいと思っています。

チャレンジには失敗がつきものですが、立石会頭はリーダーとして、新しいチャレンジや失敗にどのように臨んでこられましたか？

〈立石〉

企業経営においての失敗は、次の成功のための隠し味みたいなものだと思う

ています。失敗を次に活かせるかどうか非常に重要です。

私は、会社でいえば社員、会議所でいえば会員の一人ひとりに夢や志をもってもらうことが重要だと考えています。そのために長期のビジョンを立て、組織が一体となって同じ方向を向いて進んでいくことが、失敗を恐れずチャレンジングな組織を創り上げていくと確信しています。

〈竹内〉

立石会頭はこれまでも「社員がいるから経営者としての自分があるんだ」というスタンスのご発言をされていますが、そういったマインドはどのように培われてきたのでしょうか？

〈立石〉

先代である父から受け継いだ理念が大きいのと思います。「人を最も幸せにする者が、最も幸せになる」という人生訓が私の考え方の基本になっています。

会議所運営においても、会頭就任当初から逆ピラミッド型の組織運営を心がけています。一番上には会員企業の顧客がいて、その下に会員企業、役員議員と続き、会頭である私は一番下で支えていくということですね。

〈竹内〉
これからの京都を担っていく若い経営者に向けて、何かアドバイスはありますか？

〈立石〉

これからは京都の持つ文化をベースにした「文化×産業」の創造が必要です。文化を学び、京都の創造性や独創性、精神性を身に付けることが、これからの若い経営者の役割だと思います。

そして人のため、社会のために役立つビジネスを展開して欲しい。そのためには、何より失敗を恐れないチャレンジ精神が重要です。若い経営者にはどんなチャレンジして欲しいですね。

※このインタビューの模様は、5月19日の「京bizX」で放送されました。



【京bizX】

2007年4月にスタートしたKBS京都テレビのビジネス情報番組。毎週金曜日21:00～22:25放送中。